

今号の作業

フロントフォークに ウインカーを取り付ける



今号では、電飾エフェクト用LEDが組み込まれたヘッドライトケース、およびフロントフォークに、LED内蔵の左右ウインカーを取り付ける。大半が組み立て済みとなっているが、トラブルを防止するため配線に注意して作業しよう。

今号のパーツ



ヘッドライトケース

使用する道具

※今号で使用する道具はありません。

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

STEP
1



まず左のウインカー取り付け作業から始めよう。ウインカーの中には発光用のLEDが組み込まれているので、その配線をステー下側の溝へしっかりと押し込んでおく。

STEP
2



ウインカーステーの根元には突起が、ヘッドライトケースを固定しているアーム部の穴には切り欠きがあるので、それをしっかりと合わせる。

STEP
3



ウインカーを真すぐに差し込む。最後まで差し込めない場合は、ヘッドライトケース横の穴と、アームの穴がずれているので、ヘッドライトケースを上下に少し動かし、穴の位置を合わせてから再度ウインカーを差し込む。



次に右のウインカーを取り付ける。①の工程と同じ要領で、配線をウインカステー下にある溝へ押し込んでおく。



ウインカステーの根元にある突起と、ヘッドライトケースを固定しているアーム部に開けられた穴の切り欠きを合わせる。



右ウインカーを真っすぐに差し込む。左ウインカーの取り付けが終わってれば、右側は問題なく差し込むことができるはずだ。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。ヘッドライトケースの中と、左右ウインカーの中にはそれぞれ発光エフェクト用のLEDが組み込まれている。配線を強く引いたりすると、断線トラブルなどの原因になってしまうので、取り扱いには十分注意して保管しよう。

🔧 各種ツールを使いこなそう ～組み立て編～

本シリーズで組み立てるCB750FOURは、+（プラス）ドライバーとピンセット、ラジオペンチといった“必要最小限の道具”で組み立てられるよう設計されているが、よりきれいに、そして確実に組み立てるなら、専用の道具を使用した方がいい場合もある。ここでは、組み立て作業にお勧めしたい各種ツールを紹介しよう。



- ①+（プラス）ドライバー（※グリップ部が太いタイプ）
- ②精密ドライバーセット（※グリップ部が細いタイプ）
- ③ピンセット
- ④カッターナイフ
- ⑤瞬間接着剤（※低白化タイプ）
- ⑥ラジオペンチ
- ⑦ニッパー
- ⑧タップホルダー&中タップ（※2.0mm／2.3mm）
- ⑨金属ヤスリ（※目の細かいタイプ）

※これら各種ツール類は、ホームセンターの工具売り場で入手できます。

🔪 瞬間接着剤は「低白化タイプ」を選ぶ



組み立て作業中にパーツを破損してしまつた場合の補修には瞬間接着剤が便利だが、一般的なタイプは好ましくない。接着部分の周囲が白く曇る「白化」と呼ばれる状態になりやすいからだ。そこで「低白化タイプ」をお勧めしたい。

🔪 タップ用ツールを使ってみよう

これまでの組み立てで“タップを立てる作業”を行ってきたが、専用ツールを使えばより簡単かつ確実にタップを立てることができる。使用するのは「タップホルダー」と「中タップ(2.0mm/2.3mm)」だ。これは金属用ドリルにタップが刻まれたもので、ビス穴の内側に無理なくタップを立てることができる。なお、タッピングビスを組み付けるビス穴には使用できないので注意が必要だ。



タップホルダーと中タップ。ビス穴にタップを立てるための専用ツールだ。



タップホルダーの先端に中タップを取り付けて使用する。



実際にタップを立てているところ。真つすぐにねじ込むようにする。



専用ツールを使えばきれいにタップを立てることができるので、作業効率も高まる。

🔪 ドライバーは「ビスのタイプ」に合わせる

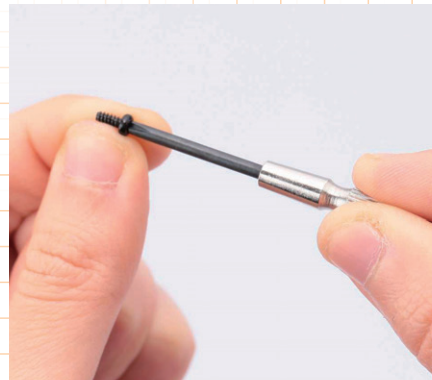
本シリーズの組み立て作業には、1番の+(プラス)ドライバーを頻繁に使用する。この「1番」というのは、ドライバー先端部分のサイズを表したもので、サイズによって適合するビスが定められている。そのため、番号の違うドライバーを使うとビスを傷めたり、締め込めないなどのトラブルを起こすので注意が必要だ。



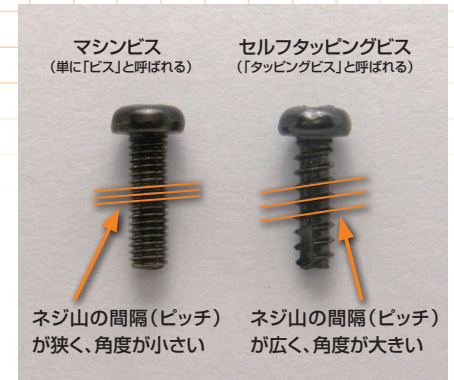
精密ドライバーセットの場合、ケース側に先端サイズを記入したものが多い。



グリップと軸の太さが異なるドライバーを用意すると便利。グリップが太いタイプは力を入れやすく、軸の細いタイプは小さなビス穴に対応できる。



ビスの頭にドライバーを差し込み、左右に軽く回してみる。このときに「カタカタ」と動くようであればドライバーが合っていないので、別のドライバーに代えよう。



本シリーズで組み立てるビスには、「マシンビス(「ビス」と呼ばれる)」と「セルフタッピングビス(「タッピングビス」と呼ばれる)」の2種類がある。ビスは金属パーツに、タッピングビスは樹脂製パーツに使われることが多い。